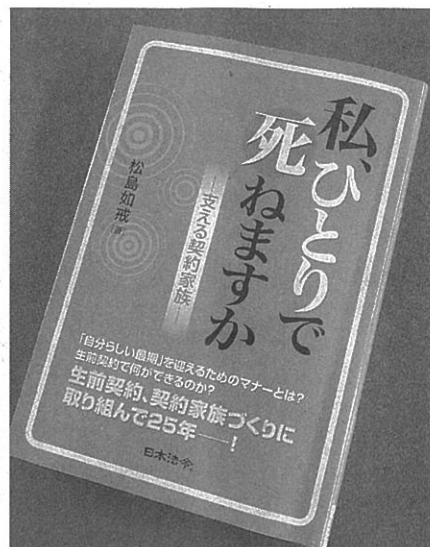


「契約家族」づくり25年

松島如戒さん（豊後大野市出身）が出版



生前契約についての著書「私、ひとりで死ねますか」を出版した、豊後大野市出身の松島如戒さん



末期がん患者からの問いかけをタイトルにした

【東京支社】「私、ひとりで死ねますか」。NPO法人りすシステム相談役の松島如戒さん（81）＝都内在住、豊後大野市出身＝が、末期がん患者からの問いかけをタイトルにした「私、ひとりで死ねますか——支える契約家族」（日本法令・1620円）を出版した。四六判、238ページ。

死後の諸手続きを取り決め

利用者の事例紹介

松島さんは1993年、自身の遺体の処分や納骨、死後の諸手続きなどを生前に取り決める「生前契約」に取り組むNPO法人りすシステムを立ち上げた。少子化や生涯未婚率の上昇で、家族や親族など血縁だけでは「死」をサポートできない時代になったと、著書では不安や心配し、著書では不安や心配保証人にならない」と言

われた女性、1男1女に恵まれたが「人生の手じまいは子供に頼らず、自分たちで決めたい」という夫婦、障害がある子供の人生を守るために生前契約を選んだシングルマザーなど、それぞれに、人生の「終活」に取り組んだ利用者の姿が描かれている。

近年は入院や手術、老人ホーム入居時の保証人なども生前契約で取り決める例もあり、本書でも紹介。松島さんは「子供がいても、海外赴任などで遠方にいる方が増えている。昔に比べ、もしものときの『家族力』が期待できない現在、生前契約によってつくる血縁のない『契約家族』の存在がますますクローズアップされるのでは」と話している。